

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 麦類赤かび病の防除対策の徹底について

麦類の出穂に伴い、赤かび病の防除時期となっていますが、今後は曇雨天が続く気象予報であり、本病の感染に好適な条件となるとともに、防除適期に薬剤散布が行えず、本病が多発する恐れがあります。ついては、下記を参考に、最新の気象予報と圃場の観察に基づく適期防除を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

### 記

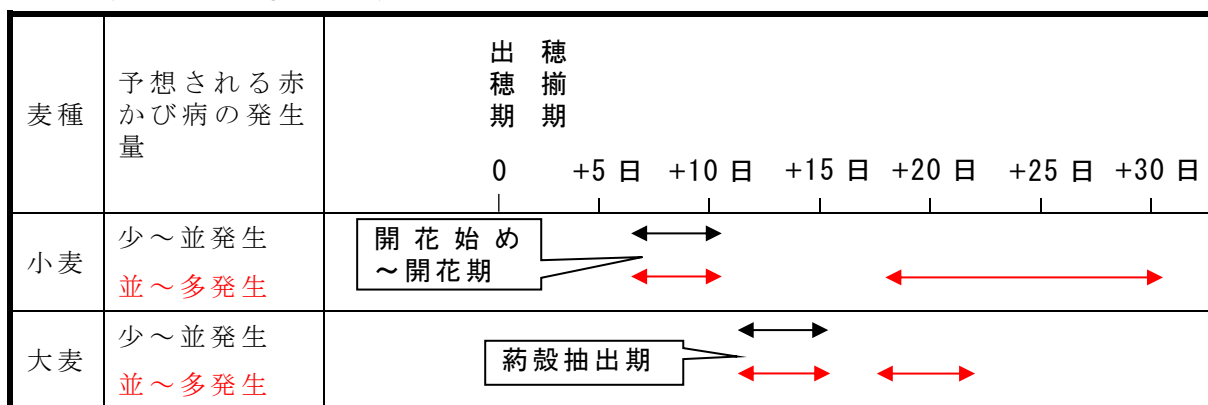
#### 1. 赤かび病の発生条件と気象予報

- (1)本病は、麦類の出穂期以降の平均気温が18~20度を超え、湿度80%以上が3日以上続く場合、あるいは降雨または濃霧頻度が高い(日照時間が少ない)場合に多発しやすい。
- (2)福岡管区气象台が3月28日に発表した九州北部地方の1か月予報では、4月6日から12日にかけては、天気は数日の周期で変わり、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないと予想されている。
- (3)以上のことから、今後感染に好適な気象条件が出現した場合、本病が多発する恐れがある。

#### 2. 防除対策

- (1)小麦の場合、開花始め~開花期(出穂期の約7~10日後)の赤かび病防除は、発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、開花10~20日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる(図1)。なお、本病の発生が多いパン用小麦については、2回防除を基本とする。
- (2)大麦の場合、葯殻抽出期(出穂期の約2週間後)の赤かび病防除は発病抑制だけでなくDON低減効果が高い。さらに、その7日後頃に2回目の散布を行うと効果が高まる(図1)。なお、本病にやや弱い「はるか二条」および「しらゆり二条」については、2回防除を基本とする。
- (3)薬剤散布は、散布後に1時間以上降雨がない状態を確保できる条件で行うことが望ましい(表1)。
- (4)出穂期は、播種時期や麦種、圃場条件等によって異なるため、必ず圃場ごとに生育状況を確認したうえで、図1を参考にしながら適期防除に努める。

図 1 赤かび病の防除適期




注1) 出穂期とは全莖数の40～50%が出穂、穂揃期とは全莖数の80%が出穂した日。  
 注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。  
 注3) 大麦の葍殻抽出期とは、50%以上の穂で葍殻が見え始めた日。  
 注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前日数)に特に注意する。  
 注5) 矢印は防除適期を示す

表 1 農薬散布から降雨までの時間の影響 (2005年、農研機構)

処理	発病度		赤かび病 防除価	かび毒 含有濃度 (mg/kg)	同左 低減率 (%)	
無降雨	2	a	96	1.5	a	96
散布直後降雨	28	b	54	9.8	b	76
30分後降雨	9	a	86	5.0	a	88
60分後降雨	7	a	89	1.0	a	98
120分後降雨	4	a	94	3.3	a	92
240分後降雨	3	a	95	1.7	a	96

注1) チオファネートメチル水和剤により防除を実施。  
 注2) 降雨は強い雨(25 mm/h)を2時間継続して実施。  
 注3) 降雨処理終了後に赤かび病菌を噴霧接種。10日後に発病度を調査した。  
 注3) かび毒含有濃度はDONとNIVの含有濃度を合算。  
 注4) 試験を3反復で実施し、その平均を求めた。ただし、対照区の発病度は、それぞれの降雨条件で実施した農薬無散布区全て(6処理区×3反復)の平均。  
 注5) 同一カラムの異なる添え字はTukey-Kramerの多重検定(5%水準)で有意差あり。

指針活用のための技術資料(令和5年3月、農林水産省)から引用

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部 〒840-2205 佐賀市川副町南里1088 TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085 Mail <a href="mailto:nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp">nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp</a> ホームページアドレス <a href="https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html">https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html</a>	
--	---